2024 年度

群馬大学共同教育学部　学部・附属学校連携室

学部・附属学校共同研究推進委員会
報 告 書

2025 年（令和７年）３月

目次

Ⅰ．はじめに ･･････2

Ⅱ．学部・附属学校共同研究推進委員会の構成 ･･････2

Ⅲ．2024 年度附属学校園研究会報告

１．附属幼稚園研究会 ･･････3

２．附属小学校研究会 ･･････4～5

３．附属中学校研究会 ･･････6～7

４．附属特別支援学校研究会 ･･････8～9

Ⅳ．2024 年度共同研究活動報告

１．附属幼稚園 ･･････10

２．附属小学校 ･･････11～12

３．附属中学校 ･･････13～14

４．附属特別支援学校 ･･････15～16

Ⅰ．はじめに　　学部・附属学校共同研究推進委員会委員長　　渡部　孝子

本冊子は，令和６年度の群馬大学共同教育学部と同附属学校園との共同研究における成果や取り組みについて報告するものである。平成 28 年 12 月 5 日の有識者会議で示された附属学校の「使命・役割」，及び本学第４期中期目標・中期計画を踏まえながら，今年度も共同研究に取り組んできた。また，令和６年度は「群馬大学共同教育学部附属学校部」が設置されるという大きな変革の年となった。これからは，附属学校部のガバナンスの下，附属学校園の連携と絆がさらに深められることが期待される。学部・附属学校共同研究推進委員会としては，群馬大学共同教育学部と附属学校園との共同研究を未来に向けて発展・深化させていく所存である。

さて，今年度の学部と附属学校の共同研究は，「公開研究会」と「学部教員や学生との共同研究」の二つに分けられる。まず「公開研究会」では，それぞれの附属学校園が定める研究テーマについて，群馬県教育委員会をはじめ各市町村の学校教育従事者との協議やご指導を仰ぎながら行ってきた実践的な研究について発信した。学部教員は研究協力者として，理論的・実践的側面から支援した。各学校園の公開研究会は対面で開催され，県内外から非常に多くの方々に参加いただくことができ，活発な意見交換が行われた。公開研究会で配布される研究紀要や学習指導案集などは，学部教員との共同執筆の形を取って群馬県内外に発信されている。そして「学部教員や学生との共同研究」では，学部が案出した理論を各学校園での実践を通した検証により質の高い研究成果を生み出している。学部教員と附属学校園教員の連携による研究により，互いの専門性を高めるための研鑽の場ともなっている。

以上の通り，令和６年度も群馬大学共同教育学部では附属学校園と連携して多くの研究成果を上げてきた。当該委員会が，群馬県における学校教育の発展に寄与できるよう，今後も継続して取り組む所存である。皆様からの忌憚のないご意見やご指導をいただけると幸いである。

Ⅱ．学部・附属学校共同研究推進委員会の構成

委員長	共同教育学部 教授（附属小学校校長）	渡部　孝子
副委員長	共同教育学部附属小学校 副校長	石関　和夫
委　員	共同教育学部附属小学校 主幹教諭	内田　圭祐
	共同教育学部 教授（教育実践センター）	吉田　浩之
	共同教育学部 准教授（教育実践センター）	阿部　充寿

Ⅲ．附属学校園研究会報告

１．附属幼稚園研究会

公開研究会

○ 日時　令和６年 11 月９日（土）　８時 30 分～15 時 30 分

○ 研究主題：あきらめないでやり遂げる力を育む保育

－「あきらめないでやり遂げる」姿に近づくために必要な幼児の力を探る－

○ 研究の概要：本園幼児が「あきらめないでやり遂げる」姿に近づくための実践研究に取り組んでいる。遊びのなかで幼児が「あきらめた」ように見えた事例について検討し，幼児理解を深めるとともに,「あきらめないでやり遂げる」具体的な幼児像や，そのために必要な幼児の力を見出していく。

○ 保育を語る会

学　級　名		保　育　者		指 導 助 言 者
3歳児（3年保育）	桃組	國分 美香	金井 理絵	都丸 千寿子 先生
	空組	岩本 美里	金澤 菜奈美	大島 みずき 先生
4歳児（3年保育）	黄組	前原 未明	須田 亜希子	髙橋 恵津子 先生
	赤組	尾髙 貴子		横坂 好枝 先生
5歳児（3･2年保育混合）	緑組	吉野 裕介	若松 史子	荒瀬 優子 先生
	青組	小峰 菜緒		伴内 弘美 先生

２．附属小学校研究会

(1) 公開研究会

○ 授業及び授業研究会　令和６年６月 13 日（木），14 日（金）

○ 研究主題：共によりよい生活を創造する子どもの育成＜ ２年次＞

～非認知能力「他者と協働する力」を発揮する学びのデザイン～

○ 研究の概要：これからの教育に求められる資質・能力の育成に向け，「非認知能力」を高める学びのデザインと学習指導の工夫等から，各教科等の問題解決的な学習の在り方を再考し，授業改善を行う。

6月13日（木）				6月14日（金）			
学習指導Ⅰ		学習指導Ⅱ		学習指導Ⅲ		学習指導Ⅳ	
国語科	6年 文章全体の構成や展開を考えて，提案書を書こう（『デジタル機器と私たち』『情報と情報をつなげて伝えるとき』） 前原　聡	理科	6年 月の満ち欠け 吉田　和気	社会科	4年 水とわたしたちのくらし 中野　智貴	生活科	2年 すてきはっけん！町たんけん 関口　雄基
社会科	5年 低い土地のくらし－岐阜県海津市－ 井出　悠介	音楽科	1年 どれみとなかよくなろう（器楽） 稲森　稚明	音楽科	5年 音の重なりを味わおう（鑑賞） 紺野　伶音	図画工作科	5年 カゲの絵（絵に表す） 大塚　裕貴
くすのきタイム	3年 ふるさと前橋生き物わくわくプロジェクト 飯塚　理志	図画工作科	4年 顔を出したら（工作に表す） 貞永　瞳	体育科	1年 ボールけりゲーム 石塚　祐子	道徳科	4年 自分に正直に（正直，誠実） 樋口　晃
道徳科	2年 みんななかよし（友情，信頼） 横尾紗也香	英語活動	3年 英語で学校探検！ 原　雄規	英語科	6年 Insta Maebashi！～見つけよう，私たちの前橋市～ 齋藤　一紀		

各教科等部部員

算数科部 佐藤　優太

体育科部 藤井　祐聖

算数科部 足尾　勇輝

家庭科部 小鮒　祐花

理科部 茂木　幹生

国語科部 中島　璃子

(2) 公開提案授業

○ 研究主題：共によりよい生活を創造する子どもの育成（３年次）

～非認知能力「自信」を深める学びのデザイン～

○ 研究の概要：「共によりよい生活を創造する子ども」の育成を図るために，非認知能力のうち，特に「自信」に着目し，その姿が現れるプロセスと学びのデザインの在り方について，実践を通して明らかにする。

＜図画工作科＞ 令和６年１１月　８日（金）１３：３５～１４：２０
第５学年「がっこうオノマトペ（工作に表す）」
授業者：大塚　裕貴

＜社　会　科＞ 令和６年１１月１９日（火）１３：３５～１４：２０
第５学年「工業生産を支える運輸と貿易」
授業者：井出　悠介

＜音　楽　科＞ 令和６年１１月２１日（木）１３：３５～１４：２０
第５学年「曲想の変化を感じ取ろう」
授業者：紺野　伶音

＜家　庭　科＞ 令和６年１１月２７日（水）１３：３５～１４：２０
第６学年「生活を見直そうⅡ ～金銭の使い方と買い物～」
授業者：小鮒　祐花

＜理　　科＞ 令和６年１２月１０日（火）１３：３５～１４：２０
第６学年「水溶液の性質」
授業者：吉田　和気

＜国　語　科＞ 令和６年１２月１８日（水）１３：３５～１４：２０
第６学年「物語を読んで考えたことを，伝え合おう
（『ぼくのブック・ウーマン』光村図書６年）」
授業者：前原　　聡

＜道　徳　科＞ 令和７年　１月１６日（木）１３：３５～１４：２０
第２学年「みんながつかう道」
授業者：横尾紗也香

＜算　数　科＞ 令和７年　１月２３日（木）１３：３５～１４：２０
第２学年「たし算とひき算のかんけい」
授業者：佐藤　優太

＜体　育　科＞ 令和７年　１月２８日（火）１３：３５～１４：２０
第１学年「ボール投げゲーム」
授業者：石塚　祐子

＜英　語　科＞ 令和７年　１月３０日（木）１３：３５～１４：２０
第６学年「My Best Memory」
授業者：齋藤　一紀

＜くすの木＞ 令和７年　２月　４日（火）１３：３５～１４：２０
第３学年「ふるさと前橋　生き物わくわくプロジェクト」
授業者：飯塚　理志

※授業研究会については，全授業とも授業日当日の１５：４５～１７：１５に行います。

３．附属中学校研究会

(1) 公開研究会

○ 日時　　令和６年 10 月９日（水），10 日（木）

○ 研究主題：実現したい未来に向けて責任をもって挑戦することができる生徒の育成
～エージェンシーを発揮し AAR サイクルを回す探究的な学びを通して～

○ 研究の概要：予測困難な未来を受動的な態度で待つのではなく，実現したい未来に向けて自分の学びに責任をもち，答えのない複雑な課題にも挑戦し続ける力が大切になると考えている。各教科等の授業における探究に向かうための課題を明確にし，生徒自ら課題設定できるようにするための手立てと，エージェンシーを発揮して AAR サイクルを回すための手立てについて各教科等の実践研究をしている。また，「未来創造科（総合的な学習の時間）」の実践を通して，教科等横断的な学びの実現や，現代的な諸課題に対応できる資質・能力の育成を目指した研究を進めている。

文部科学省　未来創造科講演会（1日目）

「子供が本気で探究する総合的な学習の時間」

平成 29 年の学習指導要領の改訂に伴って、各学校では資質・能力の育成に向けて、主体的・対話的で深い学びの視点による授業改善が進められています。また、幼児教育、義務教育、高校教育をつなぐ探究は、子供一人一人の好奇心・探究心を発揮させ、学ぶ価値を実感する機会となっています。そこで、総合的な学習の時間の特質に応じた学びに着目し、子供が本気になる「探究的な学び」を考える機会にしていただきたいと思います。

文部科学省初等中等教育局　教育課程課教科調査官　齋藤　博伸 先生

10日（木）

8:30	9:00	9:15	9:35	9:50	10:05	10:55	11:10	12:20	13:20	14:10	14:25	15:35
受付	開会式	全体会 総論説明	全体会 未来創造科説明	移動	公開授業①	移動	授業研究会①	昼食	公開授業②	移動	授業研究会②	

社会【研究主題】「平和で民主的な考えから、実現したい未来を切り拓く生徒」の育成

授業者：生方　佑樹
「よりよい日本をつくりたい！」「でも何ができるんだろう？」生徒が試行錯誤をしながら、近畿地方が抱える課題や解決策について追究する姿をお見せします。

公開授業①
近畿地方
（2年1組）

授業者：千明　　隼
「私たちが政治参加しても、何も変わらなくない？」いや、よりよい未来を創るために、自ら課題を設定する中学生の姿をお見せします。

公開授業②
現代の民主政治
（3年1組）

群馬県教育委員会
指導主事　谷田部喜博
群馬大学共同教育学部
准教授　栗谷　好子

数学【研究主題】「数学と実社会を結び付けて自ら探究しつづけることができる生徒」の育成

授業者：宇賀神　啓資
単元の「追究する」過程から、相似な図形の面積と体積の問題解決を通して抱いた「疑問に思ったこと」の解決に迫ります。

公開授業①
相似と比
（3年1組）

授業者：高山　慶介
単元の「出会う」過程から、日常に関する事象と比例・反比例との関連性に気付き、単元を通して何を学ぶべきか生徒たちが小単元の課題を設定します。

公開授業②
比例と反比例
（1年4組）

群馬県教育委員会
指導主事　浦野　　正
群馬大学共同教育学部
准教授　澤田麻衣子

英語【研究主題】「よりよい人間関係を築くために表現方法や表現内容を試行錯誤し続ける生徒」の育成

授業者：小野里　健太
「どうしたら思いや考えが相手により伝わるか？」表現を試行錯誤し続ける姿をお見せします！

公開授業①
PROGRAM 5
The Story of Chocolate
（3年4組）

授業者：瀬戸　辰徳
「新附中 Can-Do シート」に基づいて、生徒が相手意識をもって試行錯誤しながら、表現方法や表現内容を模索していきます。

公開授業②
PROGRAM 5
Work Experience
（2年4組）

群馬県教育委員会
指導主事　相川美智子
群馬大学共同教育学部
講師　津久井貴之

技術・家庭【研究主題】「生活や社会を見つめ、理想とする姿に向けて工夫し創造する生徒」の育成

授業者：山崎　　真（技術分野）
「試しにやってみんべ～」試行から広がる思考を基に、課題解決に向けて構想を具体化する生徒の姿をお見せします。

公開授業①
材料と加工の技術
（1年2組）

授業者：大竹　成美（家庭分野）
「どうすれば『理想の姿』に近づくことができるだろう？」理想と現実の差を考えながら、「理想とする姿」に向けて課題を設定する生徒の姿をお見せします。

公開授業②
日常食の調理
（1年3組）

群馬県教育委員会
指導主事　飯塚　慎也
群馬大学共同教育学部
准教授　小熊　良一
群馬県教育委員会
指導主事　中里　真一
群馬大学共同教育学部
准教授　町田　大輔

保体【研究主題】「運動やスポーツを多様な関わり方で楽しみ、心的エネルギーを獲得できる生徒」の育成

授業者：久保　涼子
「まずやってみる！」チームスポーツにおける自己や仲間の課題を見つけ、解決に向けて主体的に取り組む姿をお見せします。

公開授業①
球技：ゴール型
（ハンドボール）
（3年2組）

群馬県教育委員会
指導主事　小山　靖弘
群馬大学共同教育学部
准教授　鬼澤　陽子

道徳【研究主題】「未来への課題を自分事化し、自己のよりよい生き方を考え続ける生徒」の育成

授業者：木村　貴博
「自分らしく生きるって？」自分の考えを「心の旅」で交流しながら、多面的・多角的に考えを再考し、自己の生き方を考え続ける姿をお見せします！

公開授業②
自分らしい生き方とは
（2年3組）

群馬県教育委員会
指導主事　前原　稔彦
群馬大学共同教育学部
教授　益田　裕充

４．附属特別支援学校研究会

(1) 校内研究授業（県内特別支援学校初任者研修提供授業）

○ 授業研究会　令和６年６月 21 日（金）

○ 目的

・初任者への授業提供と授業研究会を通して，今年度ここまで取り組んできた研究の成果と課題を見出し，今後の取り組むべき研究内容を一層確かにすること。

・研究協力者と協議を行う中で，研究内容やこれまでの取組についての評価・改善の機会とすること。

学部	単元名・題材名	教科（領域）	授業者
小学部	「さわって　どうなる？　ねんどのかたち」	図画工作科（造形遊び）	小須田朱里 宮前　篤嗣 岩﨑　律子
高等部	「聴いて感じる音楽の世界」	音楽科（身体表現）	酒井　莉紗 和田　　拓 小倉　　彩

(2) **公開研究会**

○ 令和６年 11 月８日（金）

○ 研 究 主 題：自分の思いや考えをもち，社会とかかわる児童生徒の育成（１年次）
～子どもの表出から思いや考えを見取り，支援に生かす授業実践～

○ 研究の概要：本校の学校教育目標「よりよい自立と社会参加ができる児童生徒を育成する」の達成を目指す中で，児童生徒の内面（思いや考え）を大切にした授業実践を行っていく。教師が，子どものもつ思いや考えを捉えて認めたり，支援に生かしたりすることで，子どもは，自信をもって課題に取り組んだり，徐々に活躍の場を広げていったりすると考えられる。

３年計画の１年目は，子どもの思いや考えを見取るための視点について検討，整理し，得られた視点を活用しながら支援改善や授業実践を行う。

公開研究会では，子どもの様子，思いや考え等を記録するシートを用意し，対象児童生徒についての子どもの思いや考えを振り返り，支援に生かしながら授業実践を行った。

学部	単元名・題材名	教科 （領域）	授業者
小学部	「ならしてみよう　どんなおと？」	音楽科 （音楽あそび・器楽）	武井　香織 猪浦　彩夏 関口　紘樹
	「にんじゃらんどで　すばやく　うごこう」	体育科 （体つくり運動）	山﨑　真由 小越　薫子 岩﨑　律子
中学部	「じっくり　読んで　あらわそう」	国語科 （読むこと）	島田　大樹 上坂美香子
	「かんじて　ならそう　どんな音？」	音楽科 （器楽）	髙橋　初穂 長田　紗綾
高等部	「読んで　〇〇になりきろう」	国語科 （読むこと）	和田　　拓 酒井　莉紗
	「跳び箱オリンピックに向けて技を磨こう」	保健体育科 （器械運動）	大友みのり 小泉龍之介 髙坂　周平

Ⅳ．共同研究活動報告

１．附属幼稚園

(1) 共同研究

大島みずき：公開研究会を含む保育及び研究についての通年における助言

(2) 共同研究例

○ 研究に係る指導助言

・テーマ：あきらめないでやり遂げる力を育む保育
－「あきらめないでやり遂げる」姿に近づくために必要な幼児の力を探る－

・期日：令和６年５月 20 日（月）
・発表者：國分 美香，岩本 美里，前原 未明，尾髙 貴子，吉野 裕介，小峰 菜緒
・概要：幼児が“やり遂げた”事例や，“あきらめた”ように見えた事例について話し合った。「あきらめないでやり遂げる」とはどのような姿かを捉え，幼児理解を深めていくために，どのような幼児の姿や場面を選び事例として挙げ検討していくとよいか等，今年度の研究の方向性について助言を受けた。

・期日：令和６年 11 月９日（土）公開研究会
・概要：本園研究報告への指導講評，及び講話「非認知能力は遊びの中で育つ」

○ 研究に係る保育実践への指導助言

・テーマ：あきらめないでやり遂げる力を育む保育
－「あきらめないでやり遂げる」姿に近づくために必要な幼児の力を探る－
・対象：３歳児
・保育実践者：國分 美香，岩本 美里，金井 理絵，金澤 菜奈美
・期日：令和６年５月 29 日（水）
・概要：保育実践における幼児の姿や環境の構成について検討を行った。学年の終わり頃までに，幼児が「この遊びが好きだな」「これはやり遂げたい」という遊びを見付けることができるように，今の時期に大事なことは「安心感」である。また，好きな遊びが見付かるように，幼児の興味を見取り，遊びの幅や種類を広げることができるような環境を構成していく必要があると指導助言を受けた。幼児理解を深めたり，環境の構成について再検討したりする機会となり，研究主題への理解を深めた。

２．附属小学校

(1) 共同研究一覧

全体研究　４月～６月 共によりよい生活を創造する子どもの育成　～非認知能力「他者との協働する力」を発揮する学びのデザイン～
　　９月～３月 共によりよい生活を創造する子どもの育成　～非認知能力「自信」を深める学びのデザイン～

教科・対象	附属小教員	学部教員	研究テーマ・内容
国語科	前原　聡 中島　璃子	濵田　秀行 河内　昭浩	研究会 ４月～６月：言葉のもつ特性に着目しながら認識・思考・表現を繰り返し，言語能力を高める学び ９月～３月：話や文章の言葉にこだわり，正確に理解したり適切に表現したりする言語能力を高める学び
	前原　聡 中島　璃子	河内　昭浩	「群馬・これからの国語の学び研修会」実践例の提供
	内田　圭祐 前原　聡 中島　璃子	濵田　秀行	大学院生の博士論文のための実践への協力
社会科	井出　悠介 中野　智貴	宮崎　沙織	研究会 ４月～６月：社会的事象の仕組みや実社会と自らとの関わり方を見いだす学び ９月～３月：自らの力で社会的事象の仕組みや実社会と自らとの関わり方を見いだす学び
算数科	佐藤　優太 足尾　勇輝	澤田麻衣子	研究会 ４月～６月：事象を数理的に捉え，表現し，評価・改善を繰り返して，よりよい解決方法にする学び ９月～３月：事象を数理的に捉え，表現し，評価・改善を繰り返して，よりよい解決方法にする学び
	４・５・６ 学年教員	澤田麻衣子	学生の卒業論文のための調査への協力 図形における美しさの認識に関する研究
理　科	吉田　和気 茂木　幹生	益田　裕充	研究会 ４月～６月：生活の中にある自然の事物・現象についての自他の不確かな考えを基にした問題を科学的に解決する学び ９月～３月：既にもっている自然の事物・現象についての考えを科学的な考えにする学び
生活科	飯塚　理志 関口　雄基	大島みずき	研究会 ４月～６月：思いや願いの実現に向けて，自ら対象（周囲にある人・もの・ことや自分自身）と関わり，それらに対する自分なりの価値を見いだす学び ９月～３月：自分の思いや願いを自覚し，自分の進捗状況を振り返りながら対象と関わり続け，思いや願いを実現しようと試行錯誤する学び
総合的な学習の時間	飯塚　理志 関口　雄基	音山　若穂	研究会 ４月～６月： 思いや願いの実現に向けて，自ら対象（周囲にある人・もの・ことや自分自身）と関わり，それらに対する自分なりの価値を見いだす学び ９月～３月： 思いや願いを基に課題を設定し，その解決に向けて自ら関わり，新たな価値を見いだしていく学び
音楽科	紺野　伶音 稲森　稚明	吉田　秀文	研究会 ４月～６月：感性を働かせて，音や音楽から感じ取った曲想と聴き取った音楽の構造を結び付け，自分のイメージや感情・経験と関連付けながら自分にとっての音楽のよさや美しさを確かなものにしたり更新したりする学び ９月～３月：感性を働かせて，音や音楽から感じ取った曲想と聴き取った音楽の構造を結び付け，自分のイメージや感情・経験と関連付けながら自分にとっての音楽のよさや美しさを確かなものにしたり更新したりする学び
図工科	大塚　裕貴 貞永　　瞳	郡司　明子	研究会 ４月～６月：対象や事象を，形や色などの造形的な視点で捉え，自分にとっての意味や価値をつくりだす学び ９月～３月：対象や事象を，形や色などの造形的な視点で捉え，自分にとっての意味や価値をつくりだす学び
家庭科	小鮒　祐花	鎌野　育代	研究会 ９月～３月：日常生活の中から見いだした問題から設定した問題を，実践的・体験的な活動を通して解決し，生活をよりよくする学び
体育科	石塚　祐子 藤井　祐聖	鬼澤　陽子	研究会 ４月～６月：「する・みる・支える・知る」の多様な関わり方を通して，運動やスポーツのもつ楽しさや喜びを実感する学び ９月～３月：「する・みる・支える・知る」の多様な関わり方を通して，運動やスポーツのもつ楽しさや喜びを実感する学び
	北浦　佑基	鬼澤　陽子	研究 運動有能感を高める手立て―マット運動を取り上げて―
	内田　圭祐 井出　悠介	鬼澤　陽子	大学院生の博士論文のための実践への協力
特別の教科道徳	横尾紗也香 樋口　晃	山崎　雄介	研究会 ４月～６月：子どもたちが，自らの道徳的価値観を基にし，他者の道徳的価値観に触れながら，よりよく生きる基盤となる道徳性を育んでいく学び ９月～３月：子どもたちが，自己を見つめたり，多面的・多角的に考えたりすることを自ら繰り返し，よりよく生きる基盤となる道徳性を育んでいく学び
英語活動 英語科	齋藤　一紀 原　　雄規	津久井貴之	研究会 ４月～６月：目的や場面，状況等のある言語活動を通して，他者と考えや気持ちを分かり合い，コミュニケーションを行う楽しさを実感する学び ９月～３月：目的や場面，状況等のある言語活動を通して，他者と考えや気持ちを分かり合い，コミュニケーションを図る楽しさを実感する学び
学級活動	内田　圭祐 井出　悠介	鈴木　豪	「目立ちたくない」子どもたちの心理的特徴と対話的学びのための支援策
	前原　聡	鈴木　豪	学生の卒業論文のための調査への協力 小学校高学年におけるキャリア教育と学習意欲の関連
特別支援教育	内田　圭祐	霜田　浩信	知能検査課題の開発
群馬大学共同教育学部教職実践センター	大塚　裕貴	渡部　孝子	子どもの表現を捉える教師の「まなざし」について ―図画工作科「造形遊びをする活動」の時間を事例として―
	吉田　和気	林　和弘 上原　永次 益田　裕充	科学的な問題解決に向けた児童の非認知能力発揮のデザインに関する研究 －非認知能力「他者とつながる力」の発揮に向けた他者の考えを大事にする手立ての有効性－

(2) 共同研究例

○ 体育科　共同研究授業実践

・テーマ：運動有能感を高める手立てーマット運動を取り上げてー

・対　象：小学３年生

・目　的：附属小・附属中との９年間の共同研究として，運動有能感を高める指導方略の有効性を検証してきた。ここでは，ボール運動領域を取り上げたことから，個人種目においては検討していない。そこで，本研究では個人種目の「マット運動」単元を取り上げ，個人種目における運動有能感を高める指導方略を明らかにすることを目的とする。

・授業実践者：北浦　佑基

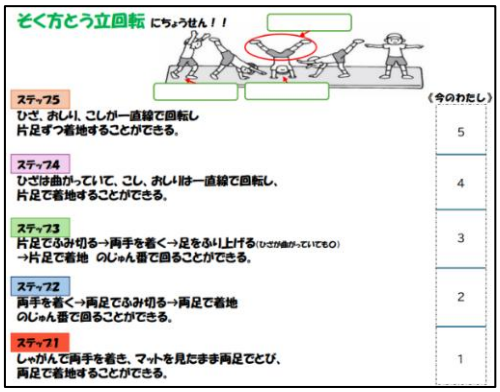
・期　日：10 月 31 日～11 月 15 日（全７時間）

・単元計画：

過程	時間	学習活動
つかむ	1	○試しの前転や後転，側方倒立回転，壁倒立を行い，共通のめあてを立てる。
追究する	1	○前転や後転の動きのポイントを見付けて，前転に取り組む。
	1	○後転の動きのポイントを踏まえて，後転に取り組む。
	1	○側方倒立回転，壁倒立の動きのポイントを見付ける。
	1	○側方倒立回転の動きのポイントを踏まえて，側方倒立回転に取り組む。
	1	○壁倒立の動きのポイントを踏まえて，壁倒立に取り組む。
まとめる	1	○今までのポイントを踏まえたマット運動に挑戦し，学習のまとめをする。

・実践内容：

学習指導要領の器械運動領域マット運動の指導内容を受け，本単元では，前転，後転，側方倒立回転，壁倒立の４つの技を学習内容として取り上げた。ボール運動領域で運動有能感を高めるために有効であった３つの視点は，①教材の工夫，②豊かな仲間との関わり，③教師による働きかけである。本単元では，その視点を基に，技の習得までの過程をスモールステップで示し，そのステップに合わせた練習方法を子どもと共有したり，技能や人間関係を考慮したグループを編成したり，肯定的なフィードバックを積極的に行ったりした。



＜スモールステップと練習方法＞

自分の能力に合わせてステップを選択し，それに応じた練習方法を行うことで，「技ができない」ではなく，「ここまではできた」という経験をすることができた。また，友達が助言や励ましてくれるので，粘り強く技の習得に向けて取り組むことができた。その結果，単元前より運動有能感が向上した。ボール運動領域で運動有能感高めるのに有効であった指導方略は，個人種目においても，有効であることが示唆された。

３．附属中学校

(1) 共同研究一覧

教科・対象	附属中教員	学部教員	研究テーマ・内容
国語科	高橋　正人 佐藤　誠一郎	河内　昭浩	研究会：生徒一人一人の学びを最大限に引き出す授業の創造 ①ICTを活用した「個別最適な学び」と「協働的な学び」の充実に向けた実践を通して ②教科等横断的な学びを実現する「未来創造科」の実践を通して 4月～10月：課題意識をもって作品の解釈を深めることができる生徒の育成 センター論文：「中学校国語科におけるICTの効果的な活用について－映像化による「読むこと」の深まりを目指して－」（群馬大学教育実践研究紀要第41号）
社会	千明　隼	粟谷　好子	研究会：生徒一人一人の学びを最大限に引き出す授業の創造 ①ICTを活用した「個別最適な学び」と「協働的な学び」の充実に向けた実践を通して ②教科等横断的な学びを実現する「未来創造科」の実践を通して 4月～10月：自らの考えと獲得した知識や他者との学びをつなぎ社会生活に生かそうとする生徒の育成
数学科	高山　慶介 宇賀神　啓資	澤田麻衣子	研究会：生徒一人一人の学びを最大限に引き出す授業の創造 ①ICTを活用した「個別最適な学び」と「協働的な学び」の充実に向けた実践を通して ②教科等横断的な学びを実現する「未来創造科」の実践を通して 4月～10月：批判的に考察し、数学を深めることができる生徒の育成
理科	斉藤　剛志	益田　裕充	研究会：生徒一人一人の学びを最大限に引き出す授業の創造 ①ICTを活用した「個別最適な学び」と「協働的な学び」の充実に向けた実践を通して ②教科等横断的な学びを実現する「未来創造科」の実践を通して 4月～10月：他者と協働しながら自らの考えを深め、科学的に探究することができる生徒の育成 卒業論文：課題を設定する場面の学習過程に関する実証的研究（研究支援） 卒業論文：課題を設定する場面での教師の介入による学生の変容に関する研究（研究支援） 卒業論文：課題と結果の表出の関係に関する研究（研究支援） 卒業論文：解決の方法を立案する場面の学習過程に関する実証的研究（研究支援）
	櫻井　康之	益田　裕充	卒業論文：理科授業における課題の類型化に関する研究～実際に行われた授業の課題を分析して～（研究支援） 卒業論文：科学的に探究する力の育成に関する実証的研究～探究の過程を振り返る学習活動を通して～（研究支援） 卒業論文：理科授業においてより妥当な考えをつくりだす力の育成に関する研究～探究の過程を振り返る学習活動を通して～（研究支援） 卒業論文：附属学校教員が理科指導法に関わることによる学生の教師エージェンシーの向上に関する研究（研究支援） 卒業論文：ChatGPTを用いた授業研究会の質的向上に関わる研究（研究支援）
		佐藤　綾	大学地域貢献事業：ゲノム医療の地域社会実装に向けたゲノムリテラシー育成のための教材開発（研究支援）
音楽科	星野　勇希	伊東　陽	研究会：生徒一人一人の学びを最大限に引き出す授業の創造 ①ICTを活用した「個別最適な学び」と「協働的な学び」の充実に向けた実践を通して ②教科等横断的な学びを実現する「未来創造科」の実践を通して 4月～10月：個別の探究と他者との対話を通して、音楽から新たな気付きと感動を得られる生徒の育成
美術科	多胡　慎平	齋江　貴志	研究会：生徒一人一人の学びを最大限に引き出す授業の創造 ①ICTを活用した「個別最適な学び」と「協働的な学び」の充実に向けた実践を通して ②教科等横断的な学びを実現する「未来創造科」の実践を通して 4月～10月：意図に応じて自分の主題を追求することができる生徒の育成
技術科	山﨑　真	小熊　良一	論文：「材料と加工の技術」の授業における３DCADを使った設計学習の効果」（共同研究）
家庭科	松島　めぐみ	佐藤　佐織	研究会：生徒一人一人の学びを最大限に引き出す授業の創造 ①ICTを活用した「個別最適な学び」と「協働的な学び」の充実に向けた実践を通して ②教科等横断的な学びを実現する「未来創造科」の実践を通して 4月～10月：４つの視点を用いて新たな問題における解決策を見いだす生徒の育成
保健体育	久保　涼子	木山　慶子	研究会：生徒一人一人の学びを最大限に引き出す授業の創造 ①ICTを活用した「個別最適な学び」と「協働的な学び」の充実に向けた実践を通して ②教科等横断的な学びを実現する「未来創造科」の実践を通して 4月～10月：自己の適性等に応じた運動やスポーツの楽しみ方と心的エネルギーを獲得できる生徒育成
道徳科	木村　貴博	益田　裕充	研究会：生徒一人一人の学びを最大限に引き出す授業の創造 ①ICTを活用した「個別最適な学び」と「協働的な学び」の充実に向けた実践を通して ②教科等横断的な学びを実現する「未来創造科」の実践を通して 4月～10月：道徳的な課題を自分との関わりでとらえ、多面的・多角的に考えながら、人間としての生き方について考えを深められる生徒の育成
未来創造科	櫻井　康之 新井　英雄 山口　智也 生方　佑樹	上原　永次	研究会：生徒一人一人の学びを最大限に引き出す授業の創造 ①ICTを活用した「個別最適な学び」と「協働的な学び」の充実に向けた実践を通して ②教科等横断的な学びを実現する「未来創造科」の実践を通して 4月～10月：現代的な諸課題を探究し、夢や希望あふれる未来を創造する生徒の育成 センター紀要：総合的な学習の時間「未来創造科」を軸とした教科等横断的な学びの実現に関する実証的研究― 教科等横断的な視点に立った資質・能力の育成及び統合を通して―（共同研究）
英語科	小野里　健太 瀬戸　辰徳	津久井貴之	研究会：生徒一人一人の学びを最大限に引き出す授業の創造 ①ICTを活用した「個別最適な学び」と「協働的な学び」の充実に向けた実践を通して ②教科等横断的な学びを実現する「未来創造科」の実践を通して 4月～10月：目的や場面、状況等に応じて、表現力豊かにコミュニケーションを図る生徒の育成

(2) 共同研究例

○ 国語科　共同研究授業実践

・テーマ　「書くことの問題はどのように解いていくのか」
（群馬県過去問題を活用した高校入試対策）

・対象：３学年

・授業実践者：群馬大学共同教育学部国語技術教育専攻　　教授　河内　昭浩

・期日：令和６年 11 月 25 日(月)

・概要：本時は，群馬県過去問題を活用して，本文のことばから記述問題にどのように解答していくか，技能を高めていく内容であった。導入では，説明文の入試過去問へ取り組んだ。その後，説明文では「接続詞」と「キーワード」と「対比」とでできていることが多いことを理解した。接続詞では特に「順接」や「逆接」に注目していくこと，「キーワード」では「同じ言葉」や「似た言葉」，「急に出てきた言葉」に気付くこと，「対比」では異なる考えを提示することを，本文を基にしながら解答につなげていく方法を確認した。記述問題では，解答に示されている本文のことばが必須の内容となるのか「対比」の知識を基にしながら考えることで生徒の理解が深まった。本時の最後には，条件作文の問題について回答していく上での注意点について考えた。

○ 技術科　共同研究授業実践

・テーマ：知的財産の保護と活用について考える（情報の技術）

・対象：１学年

・授業実践者：群馬大学共同教育学部技術教育専攻　准教授　小熊　良一

・期日：令和６年 11 月 27 日（水）

・概要：本時は，「生徒が自分自身でつくった著作物を利用する方法を考える活動を通して，著作権の意義を知り，他人の著作物を利用する際には著作者の気持ちを考え，ルールを守ることが大切であることに気付けるようにすること」を目標としていた。導入では，本時の課題をつかむために，知的財産権に関わる用語の意味の説明をした。その後，自分の著作物についてどこまで（①友達や家族（親しい人），②校内の人，③インターネット，④誰にも使われたくない）であれば使用されても良いかについて考えさせ，その理由も考えさせた。生徒は「著作権について考えることができた。これからは著作権を意識して生活していきたいと思う」というような振り返りをしており，著作者の気持ちを考え，ルールを守ることが大切であることに気付くことができた。

４．附属特別支援学校

(1) 共同研究一覧

教科等	学部	特別支援学校教員	研究協力者・指導教員	時期	単元名・題材名／内容
国語科	中学部	島田　大樹 上坂美香子	特別支援教育講座　霜田　浩信 国語教育講座　河内　昭浩	9月～11月	「じっくり　読んで　あらわそう」（読むこと）
	高等部	和田　　拓 酒井　莉紗	特別支援教育講座　金澤　貴之 国語教育講座　河内　昭浩	9月～11月	「読んで　〇〇になりきろう」（読むこと）
音楽科	小学部	武井　香織 猪浦　彩夏 関口　紘樹	特別支援教育講座　阿尾　有朋 音楽教育講座　菅生　千穂	9月～11月	「ならしてみよう　どんなおと？」（音楽あそび・器楽）
	中学部	髙橋　初穂 長田　紗綾	高崎健康福祉大学　人間発達学部子ども教育学科　浦﨑　源次 音楽教育講座　菅生　千穂	9月～11月	「かんじて　ならそう　どんな音？」（器楽）
	高等部	酒井　莉紗 和田　　拓 小倉　　彩	特別支援教育講座　金澤　貴之 音楽教育講座　菅生　千穂	6月～7月	「聴いて感じる音楽の世界」（身体表現）
	小中高	小越　薫子	音楽教育講座　菅生　千穂	12月	「音楽専攻学生オーケストラによる音楽鑑賞教室」
美術科 図画工作科	小学部	小須田朱理 宮前　篤嗣 岩崎　律子	東京福祉大学　保育児童学部保育児童学科　上田　征三 特別支援教育講座　阿尾　有朋 美術教育講座　林　　耕史	6月～7月	「さわって　どうなる？　ねんどのかたち」（造形あそび）
	小学部	武井　香織 猪浦　彩夏 関口　紘樹 小須田朱理	美術教育講座　林　　耕史	1月	「つんで　つなげて」（造形あそび）
保健体育科 体育科	小学部	山崎　真由 小越　薫子 岩崎　律子	東京福祉大学　保育児童学部保育児童学科　上田　征三 保健体育講座　中雄　勇人	9月～11月	「にんじゃらんどで　すばやく　うごこう」（体つくり運動）
	高等部	大友みのり 小泉龍之介 髙坂　周平	特別支援教育講座　中村　保和 保健体育講座　中雄　勇人	9月～11月	「跳び箱オリンピックに向けて技を磨こう」（器械運動）
生活単元学習	高等部	小島　靖弘 小泉龍之介	特別支援教育講座　霜田　浩信	11月～12月	卒業論文：「知的障害特別支援学校高等部における『衣服の選択』の指導方法の検討～家庭科衣生活分野の指導の現状調査に基づく実践を通して～」　（研究支援）
その他	小学部 学部外	小越　薫子 宮前　篤嗣 堀込　直道	特別支援教育講座　金澤　貴之 教育実践センター　長谷川剛広	10月～11月	教職大学院報告書「知的障害児の地図を読むための基礎となる支援方法～記号化された教室の地図を用いて」（研究支援）
	学部外	真下　和将 草処　和江	弘前大学大学院　教育学研究科　教職実践専攻　菊地　一文 D-ｄｉｓｃｏｖｅｒｙまつなみ　松波　芳子 美術教育講座　林　　耕史 特別支援教育講座　霜田　浩信	11月	シンポジウム：「知的障害のある子どもの自立と社会参加に向けて～思いや考えを大切にした支援の在り方を考える～」
	学部外	小泉龍之介 真下　和将 堀込　直道	保健体育講座　木山　慶子	9月～11月	研究発表：子どもの表出から思いや考えを推察する支援記録シートを用いた授業実践
		小泉龍之介 福田　　浩	特別支援教育講座　霜田　浩信 保健体育講座　木山　慶子	9月	群馬大学教育実践研究：知的特別支援学校小学部における跳ぶ動作を身に付ける体育科の授業実践

(2) 共同研究例

○ 国語科　共同研究授業実践

・テーマ：自分の思いや考えをもち，社会とかかわる児童生徒の育成
　　～子どもの表出から思いや考えを見取り，支援に生かす授業実践～

・単元名：「じっくり　読んで　あらわそう」

・対象：中学部　１年生　６名

・授業実践者：島田　大樹，上坂美香子

・期日：令和６年 11 月８日（金）

・概要：

本単元は，文や物語を３人ずつのグループに分かれて読み，①文や単語の内容と合うイラストを選ぶ，②イラストを選んだり並べたりして絵に表す，③それぞれの絵を見合い確かめながら，グループごとに文や物語の場面を作るという活動を行った。

単元の前半では，「Ａさんは，ブランコのまえにたっていた」のような簡単な文を読んだ。対象生徒は，「Ａさん」という言葉を読み，すぐにＡさんの写真を選ぶことはできたが，Ａさんの写真を横向きにして，寝ているように貼っていた。この様子から教師は，対象生徒が，「『たっていた』って何だろう？」と考えたのではないかと推察した。そこで，「たっていた」を動作で表すことを提案し，対象生徒と寝転がったり，立ったりしながら，「たっていた」の意味を捉えることができるようにした。また，教師は次時からの支援具やかかわり方について，提示する文の主語と述語の色や大きさを変えて分かりやすく示したり，述語を指差して「何をしましたか」と質問し，動きを表す言葉に注目できるようにしたりすることにした。

単元の半ばから後半にかけては，『きつねのおきゃくさま』（あまんきみこ作）を題材として，登場人物や登場人物の動作に着目しながら読み進め，イラストを組み合わせて場面を表す学習活動を行った。ここでは「食べているきつね」や「話しているきつね」などの複数のきつねのイラストや，一部が可動するイラストを用意するようにした。こうすることで，単元の終わりには，「きつね」や「ひよこ」などの登場人物だけでなく「たべる」，「はなす」などの動詞を読み取り，正確に場面を表すことができるようになってきた。

本単元の授業実践において，教師は，対象生徒の発言や動作，イラストを動かす様子，どこに注目しているかなどの表出を観察し，対象生徒の思いや考えを推察しながら，支援を改善していった。このように，「できた」「できなかった」だけでなく，「思い」や「考え」を推察することで，より対象生徒の内面に近い支援を行うことができ，一層学びが深まっていくことを確認することができた。

報告書の作成 担当者

共同教育学部 教授（附属小学校校長）	渡部　孝子
共同教育学部 附属小学校 副校長	石関　和夫
共同教育学部 附属小学校 主幹教諭	内田　圭祐
共同教育学部 教授（教育実践センター）	吉田　浩之
共同教育学部 准教授（教育実践センター）	阿部　充寿

2024 年度　群馬大学共同教育学部 学部・附属学校連携室

学部・附属学校共同研究推進委員会　報告書

2025 年 3 月
発行　　群馬大学共同教育学部　学部・附属学校連携室
学部・附属学校共同研究推進委員会
群馬県前橋市荒牧町四丁目 2 番地
電話（直通）　027-220-7385（事務局）
ファクシミリ　027-220-7381（事務局）